

排泄センサーを基軸とした介護者支援システムの開発

株式会社 a b a

背景および課題

◇人手不足の介護現場を支えるのは**介護未経験者**たち

退職者のうち 7 割が 3 年以内に退職^[1] 在宅介護者は年間 10 万人自分の仕事を辞めている^[2] 隠れ家族介護者 1,300 万人^[3]

◇介護の中で一番大きい負担が**排泄/おむつ交換**^[4]

1位:排泄(排泄時の付き添いやおむつ交換) 62.5% 2位:入浴(入浴時の付き添いや身体の洗浄) 58.3% 3位:食事(食事の準備、食事の介助) 49.1%

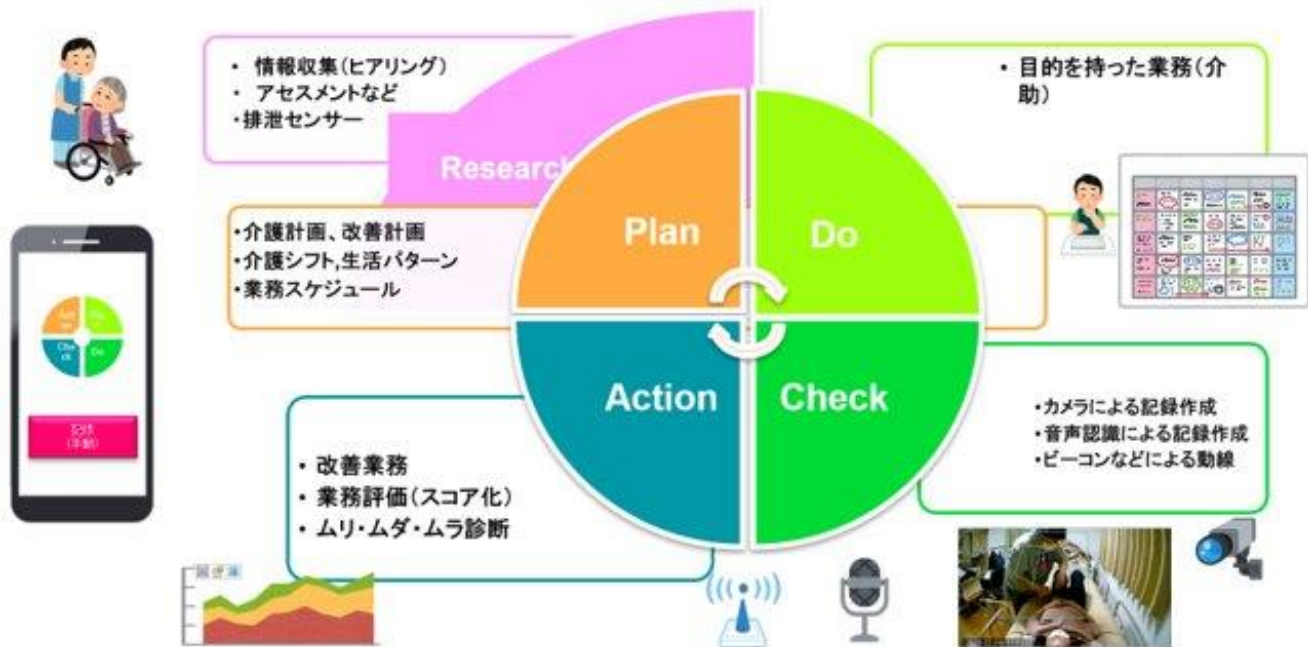
(複数回答可・全12項目)

排泄を基軸とした
介護業務の見える化

RPDCA サイクルを意識した
システム

業務効率化だけでなく
ケアの質向上も目指す

排泄を基軸とした介護者支援システムの開発



尿便識別可能な AI の開発を目的とした排泄センサーシステムの開発 (写真: 右参照)

実証実験用排泄センサーの改良/消費電力の大幅削減

介護者業務スケジュール最適化 AI の開発

カメラによる画像解析で、居室での 4 基本介助業務(排泄介助、体位交換、入床介助、離床介助)の姿勢推定を概ね可能とした

トイレ内対話システムの構築(コンソ間連携)

介護職員へのヒアリングを実施し、ターゲットおよびユースケースの整理

→トイレ内状況確認エンジンの開発

音声解析による介護業務の自動記録システムの構築(コンソ間連携)

音声から、介護職員が実施している業務を認識できることを検証



会社情報は「こちら」

[1]公益財団法人介護労働安定センター H30 年度 介護労働実態調査の結果と特徴

[2]株式会社大和総研 「介護離職の現状と課題」2019 年 1 月 9 日

[3]株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部 渥美由喜・研究部長兼主席コンサルタントの協力を得て試算された結果

[4]H25 年度内閣府調査